

## 式年造替記念特別展

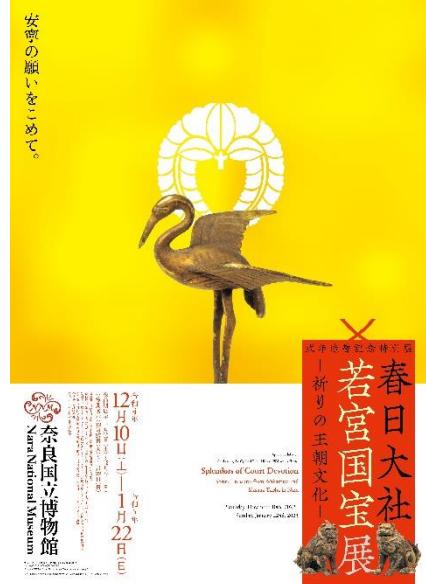
# 「春日大社 若宮国宝展－祈りの王朝文化－」報道発表資料

報道発表会場：春日大社 感謝・共生の館

令和4年（2022）10月、春日大社の摂社、若宮神社の本殿（重要文化財）の御造替が完了いたします。御造替とは、社殿を造り替え、神宝や調度品などを新調する事業で、古来、20年に一度を式年として行われてきました。本展覧会はこの大事業の完成を記念して開催する特別展です。

春日若宮神は、春日大社本社本殿に祀られる四神の御子神として、長保5年（1003）3月3日巳刻<sup>みのこく</sup>に誕生したと伝えられています。御名を天押雲根命、あるいは五所王子（五番目の神の意）といい、水徳の神、五穀豊穣<sup>ごくこう</sup>の神、さらには学問の神として広く信仰されてきました。毎年12月に行われる「春日若宮おん祭」は、大和一国を挙げた盛大な祭礼として全国にも知られ、保延2年（1136）の開始以来、およそ900年近い伝統を誇るものであります。

本展では、藤原摂関家をはじめ平安貴族が若宮神に奉納した太刀や弓、飾り物など、当時最高峰の技術を集めた工芸品から、壮麗な王朝文化の世界を感じていただき、また古来の祭礼や神事芸能の数々をご紹介いたします。さらに、過去、現在の御造替にかかる器物や歴史資料を通して、これを支えた人々の熱意と努力の軌跡をふり返ります。本展が、日本文化の奥深さと素晴らしいを再確認していただく機会になればと願っております。



## 開催概要

展覧会名：式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展－祈りの王朝文化－」

会期：令和4年（2022）12月10日（土）～令和5年（2023）1月22日（日）

会場：奈良国立博物館 東・西新館（奈良市登大路町50）

休館日：毎週月曜日（ただし、1月2日 [月・休]、1月9日 [月・祝] は開館）

年末年始（12月28日～1月1日）、1月10日（火）

開館時間：午前9時30分～午後5時

※入館は閉館の30分前まで

観覧料金：一般 1,600 円（1,400 円）、高大生 1,400 円（1,200 円）、小中生 700 円（500 円）

※ ( ) 内は前売料金です。

※ 前売券の販売は、2022 年 10 月 11 日（火）～12 月 9 日（金）です。

販売場所：イープラス、ローソンチケット、チケットぴあ、CN プレイガイド、楽天チケット、セブンチケット

※ 本展の観覧券で、西新館にて開催する名品展「珠玉の仏教美術」、なら仏像館・青銅器館の名品展「珠玉の仏たち」・「中国古代青銅器」もご覧いただけます。

※ 奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員（学生）の方は 400 円、同（教職員）の方は 1,500 円で当日券をお求めいただけます。観覧券売場にて学生証または職員証をご提示ください。

主催：奈良国立博物館、春日大社、朝日新聞社、NHK 奈良放送局、NHK エンタープライズ近畿

協賛：天理時報社

協力：日本香堂、仏教美術協会

お問合せ：050-5542-8600（ハローダイヤル）

奈良国立博物館公式ホームページ：<https://www.narahaku.go.jp>

## 【第 1 章 春日若宮神の誕生】-----

春日若宮神は、長保 5 年（1003）3 月 3 日巳刻（午前 10 時頃）に、春日大社本社本殿の第四殿に蛇の姿で顕現したと古記は伝えています。古来、蛇は水や農業と縁が深く、若宮神は水神や農業神の性格をもっていたと考えられます。飢饉や疫病の多発する時代、人々の篤い信仰を集めたことでしょう。また、鎌倉時代には神仏の習合が進み、若宮神は文殊菩薩と同一とみなされ、その姿を描いた作品が多く作られます。本章では、若宮神の誕生と信仰の広がりを古記録や絵画作品を通して紹介いたします。

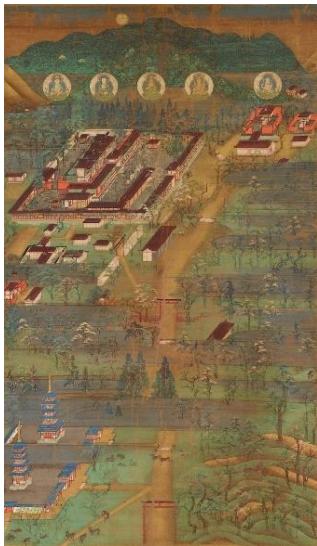


春日権現の靈験を示す説話をまとめた全 20 巻からなる絵巻物で、鎌倉時代を代表するやまと絵の傑作。延慶 2 年（1309）に左大臣・西園寺公衡が春日明神の擁護と家門の繁栄を祈って発願し、絵は宮廷絵師である高階隆兼が描いた。

国宝 春日権現記絵(かすがごんげんげんきえ) 卷第七 卷第十三

鎌倉時代（14 世紀）

宮内庁三の丸尚蔵館【前期（12/10～12/25）：卷第十三】【後期（12/27～1/22）：卷第七】



重要文化財 春日宮曼荼羅(かすがみやまんだら)

鎌倉時代 (13世紀)

奈良・南市町自治会【前期 (12/10~12/25)】

春日大社の景観を描く春日宮曼荼羅のうち現存最大規模を誇る。社殿などの建築を克明に表し、樹木一本一本を精緻な筆致で描き込む。上空に浮かぶ円相内には春日大社の神々の本来の姿とされた五尊の仏菩薩が描かれている。



文殊菩薩立像(もんじゅぼさつりゅうぞう)

鎌倉時代 (13世紀)

東京国立博物館【通期】

頭上に 5 つの 髻<sup>もとどり</sup> を結うことから、五髻文殊<sup>ごけいもんじゅ</sup> と称される。立像形式の五髻文殊はめずらしく、凜々しい顔だちは仏師善円<sup>ぜんえん</sup> の作風に近い。善円作の奈良国立博物館十一面觀音像やアメリカ、アジア・ソサエティー地蔵菩薩像とともに、春日社の祭神を仏の姿であらわした本地仏として元来一具をなしていた 5 軀<sup>く</sup> 中の 3 軀<sup>く</sup> (三宮<sup>さんのみや</sup>・四宮<sup>しほみや</sup>・若宮<sup>わかみや</sup>) とする説がある。建保 3 年 (1215) に春日山内に建てられた興福寺<sup>きいじん</sup> 四恩院十三重塔にまつられていた本地仏五尊にあたる可能性がある。

## 【第2章 若宮御料古神宝の世界—王朝文化の粋—】-----

神宝とは、神のために特別に用意された調度品や武具類のことで、貴族から奉納された品々を含むこともあります。若宮神は藤原摂関家や鳥羽上皇から篤く信仰され、今日「若宮御料古神宝類」と呼ばれる国宝の中には、藤原忠実、忠通、頼長らをはじめとした摂関家の奉納品が含まれています。蒔絵や螺鈿、ガラス細工など、平安時代の最高峰の技術と贅を尽くしたきらびやかな王朝文化の逸品をご紹介します。



国宝 若宮御料古神宝類 金鶴及銀樹枝・銀樹枝  
(わかみやごりょうこしんぼうるい きんつるおよびぎんじゅし・ぎんじゅし)  
平安時代（12世紀）  
奈良・春日大社【通期】



金鶴洲浜台  
(きんつるすはまだい)  
現代 令和4年（2022）  
奈良・春日大社【通期】

若宮神社に納められた古神宝は、平安時代後期の貴族が愛した意匠や造形美を示す品であり、「若宮御料古神宝類」として一括で国宝に指定されている。本品はその中の一つで、王朝文化の美意識を今に伝える逸品。平安時代の貴族の日記類には、歌会や祝儀の場に、鶴亀を乗せた洲浜台や雛道具（小さな調度品）など趣向を凝らした「作り物」が置かれ、めでたく雅な雰囲気（「風流」）を演出していた様子が見られる。金鶴及銀樹枝・銀樹枝（写真左）はそうした「作り物」の唯一の遺品である。純金の鶴が銀の枝に止まる精密な造形で、当初は洲浜や磯形に取り付けられていたと思われる。鶴は孤高の神仙、長寿の象徴である。若宮神社の創建に伴い、若宮神の成長と発展を祈って摂関家から奉納されたものと思われる。

金鶴洲浜台（写真右）は、上記の金鶴及銀樹枝の材質や制作技法を調査研究し、復元新調されたもの。制作は重要無形文化財（彫金）保持者の桂盛仁氏。今回の造替事業に伴い2組が制作されており、1組は若宮神社に奉納、1組は本展で初公開される。



国宝 若宮御料古神宝類 毛抜形太刀  
(わかみやごりょうこしんぼうるい けぬきがたたち)  
平安時代 保延元年 (1135)  
奈良・春日大社【通期】

春日大社若宮神社に奉納された古神宝類の一つ。持ち手の柄の部分に毛抜に似た形の透かしが入れられるためこの名がある。保延元年 (1135)、ふじわらのただごね藤原忠実が若宮神社に寄進した太刀に当たると考えられている。外装の美しい装飾が見事で、さや鞘は紫檀しちんの地に宝相華ほうそうげや蝶の螺鈿文様らでんもんようを施し、中央に銀地に鳥や岩の文様が黒く表れた桶ひを作る。柄の部分に施された精緻な彫ちょう金文様きんにも目を見張る。



若宮御料古神宝類 毛抜形太刀 復元模造  
(わかみやごりょうこしんぼうるい けぬきがたたち ふくげんもぞう)  
現代 平成 15 年 (2003)  
奈良・春日大社【通期】

若宮御料古神宝類の毛抜形太刀の復元模造作品。若宮御出現一千年祭を記念して2口制作され、そのうち1口は若宮神社の本殿に納められた。本展に出陳されるのはもう一方の品である。模造制作にあたっては、原品の保存修理の過程で行われた調査の成果が踏まえられ、原品の当初の姿を忠実に再現した模造作品が完成した。鞘の装飾は漆芸家の北村昭斎氏、鞘は鞘師の高山一之氏、刀装の金具類は白銀師の宮島宏氏が担当した。



国宝 金地螺鈿毛抜形太刀(きんじらでんけぬきがたたち)

平安時代（12世紀）

奈良・春日大社【通期】

春日大社本社本殿のうち第二殿より撤下された豪華絢爛な毛抜形太刀。鞘には螺鈿の技法を用い、竹林で雀を追いかける猫の姿を表す。さらに猫・雀の目や斑模様、竹葉には、茶や緑のガラス材を嵌め込んで加飾する。近年の調査により、本品に装着される金具の多くはほぼ純金製であることが確認された。制作背景や奉獻した人物は明らかでないが、猫を愛玩したといわれる藤原頼長の関与が指摘されている。



金地螺鈿毛抜形太刀 復元模造(きんじらでんけぬきがたたち ふくげんもぞう)

現代 平成 30 年（2018）

文化庁【通期】

文化庁の復元模造事業によって制作された金地螺鈿毛抜形太刀の復元模造品。光学調査（エックス線 CT スキャン及び蛍光エックス線）の成果に基づき、可能な限り原品と同じ素材を用いて制作された。原品では、経年劣化によるくすみが生じている箇所があるが、忠実な模造制作によって制作当初の輝きを見ることができる。なお、復元模造品は春日大社によってもう 1 口制作され、そちらは平成 28 年（2016）第 60 次式年造替（本社本殿）の際に、春日大社本社本殿に納められた。

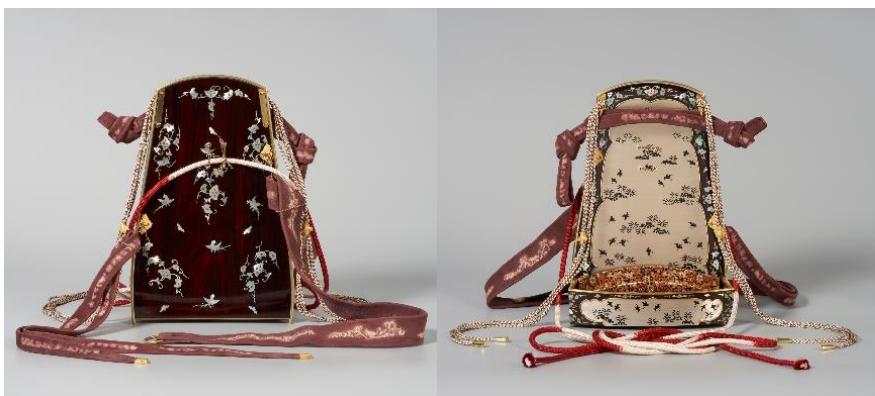


国宝 若宮御料古神宝類 平胡籙(わかみやごりょうこしんぼうるい ひらやなぐい)

平安時代 大治 6 年 (1131)

奈良・春日大社【通期】

やなぐい 胡籙とは矢の携帯に用いられる武具のこと。紫檀製の背板表面には、千鳥が飛び交う岩場を表わした銀板が嵌め込まれ、裏面には螺鈿によって宝相華の間を尾長鳥や蝶の飛び交うさまが表わされている。本作は大治 6 年 (1131) に崇徳天皇が鳥羽上皇の住む三条殿へ行幸した際、供として加わった藤原頼長が使用したもので、それが保延 2 年 (1136) に若宮神社に奉納された宝物と見なされている。



若宮御料古神宝類 平胡籙 復元模造

(わかみやごりょうこしんぼうるい ひらやなぐい ふくげんもぞう)

現代 平成 30 年 (2018)

文化庁【通期】

国宝の原品は現在各部が分離しているが、胡籙本来の姿は方立という小箱の中に矢配板という複数の板を仕込み、そこに鏡を収めて矢を束ね、背板に固定するというものであった。文化庁の復元模造事業により、可能な限り原品に忠実なかたちで制作された本品は、宝物の当初形態を明確に示すとともに、紫檀や螺鈿、また白く輝く銀板と黒い文様の対比など、本来意図されていた装飾効果の妙をよく表現している。

## 【第3章 御造替の伝統】-----

春日大社では神が鎮座する社殿を造り替えて<sup>ことほ</sup>ぐ事業を造替<sup>ぞうたい</sup>といいます。20年に一度の造替を式年造替<sup>しきねん</sup>といい、春日大社では今般で60回目の式年造替を実施しました。平成28年（2016）に本社本殿（第一～四殿）の御造替、続いて令和4年（2022）に若宮本殿の御造替が完了予定で、1000年を超える伝統と技術を守り伝えていきます。本章では御造替に関わる記録類と、過去の御造替で撤下<sup>てっか</sup>（神前に供えた品を下げる）された品々を集め、そこに込められた知恵と努力の歴史を紹介します。



春日大社の式年造替に当たって、社殿の建築に関連する儀式で使用された道具類。儀式で使うため、<sup>ちょうどな</sup> 鉤<sup>すみつば</sup>や墨壺<sup>ぼくしょ</sup>といった本来は実用の大工道具である品に華美な装飾が施されている。本品を収める箱には儀式に参列したと思われる大工の名が<sup>ぼくしょ</sup>墨書<sup>ぼくしょ</sup>され、慶安3年（1650）の年紀も見える。このことから、同5年（1652）の第42次の式年造替の折に<sup>ととの</sup>調えられた品であることが推定される。

遷宮番匠道具(せんぐうばんじょうどうぐ)

江戸時代（17世紀）

奈良・春日大社【通期】



獅子・狛犬(しし・こまいぬ)

（第一殿撤下品(だいいちでんてっかひん)）

鎌倉時代（13世紀）

奈良・春日大社【通期】



獅子・狛犬(しし・こまいぬ)

（若宮神社撤下品(わかみやじんじやてっかひん)）

鎌倉時代（13世紀）

奈良・春日大社【通期】

初公開

一対で社殿を守る獅子と狛犬の像。この二対は春日大社本社本殿のうち第一殿と摂社の若宮神社の本殿にそれぞれ安置されていたが、近年に撤下され、社殿を離れることとなった。いずれも小さな頭部をがっしりとした体部<sup>てっか</sup>が支えるプロポーションに鎌倉時代の特色をみることができるが、動きを抑えた姿勢や、<sup>たてがみ</sup>鬚<sup>たてがみ</sup>が体の線に沿ってゆったりと流れる造形に前代の名残を留めている。若宮神社の一対は本展覧会が初めての一般公開となる。

## 【第4章 若宮信仰の発展とおん祭】-----

若宮神を寿ぐ「おん祭」は、保延2年（1136）、時の関白藤原忠通によって始められたと伝えられます。春日大社と興福寺の間に設けられた御旅所に仮の宮を建て、若宮神を招き、古式の神事と神楽、そして舞楽や猿楽などの芸能が奉納されます。大和一国を挙げて盛大に挙行されるおん祭の様子とその歴史を、古記録や絵巻などから振り返ります。



春日若宮御祭礼絵巻 上・中・下巻

(かすがわかみやごさいれいえまき)

江戸時代（17世紀）

奈良・春日大社【通期（巻替えあり）】

春日若宮おん祭の様子を描いた3巻からなる長大な絵巻。おん祭の華であるお渡り式（風流行列）のみでなく、前後の神事を含めて丁寧に記録する。伝統的行事であるおん祭の、江戸時代の様相を伝える貴重な作品。



国宝 赤糸威大鎧（竹虎雀飾）

(あかいとおどしおおよろい(たけとらすすめかざり)) (伝源義経所用)

鎌倉～南北朝時代（13～14世紀）

奈良・春日大社【通期】

春日大社に伝わった大鎧の形式の甲冑。力強く、そして立体感に富んだ飾金物には目を見張るものがある。なかでも大袖に配された竹と虎、そして全体を飛び回る雀の意匠から、本品は「竹虎雀飾」と通称される。赤色が鮮やかな威毛は当初の色彩をとどめており、茜で染められたものとみられる。金物を多用する点から本品は実戦用の甲冑ではなく、儀式や奉納を目的として制作されたものと考えられる。社伝では 源義経所用とされている。

## 企画チケット

### ①奈良国立博物館「若宮国宝展」&春日大社国宝殿「杉本博司－春日神靈の御生展」共通チケット

料金 : 2,000 円 (税込)

販売先 : イープラス、ローソンチケット、チケットぴあ、CN プレイガイド、楽天チケット、セブンチケット

販売期間：令和 4 年 (2022) 10 月 11 日 (火) ~12 月 9 日 (金)

※杉本博司展の会期は、令和 4 年 (2022) 12 月 23 日 (金) から令和 5 年 (2023) 3 月 13 日 (月) です。

### ②クリスタルチャーム付きチケット

春日大社謹製の若宮御造替記念品。

「国宝 若宮御料古神宝類 金鶴及銀樹枝」が 3D レーザー彫刻加工されたクリスタルチャーム。

料金 : 2,200 円 (税込)

販売先 : ローソンチケット

販売期間：令和 4 年 (2022) 10 月 11 日 (火) ~12 月 9 日 (金)

限定枚数：300 枚

※数量限定での販売になります。



### ③研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞チケット

料金 : 2,500 円 (税込)

販売先 : イープラス

販売期間：令和 4 年 (2022) 10 月 11 日 (火) ~12 月 9 日 (金)

限定枚数：各 90 枚 (先着順)

★特典① 奈良国立博物館の研究員によるレクチャーをご聴講いただけます。

★特典② 閉館後の展示室を貸し切り、2 時間ゆったりご観覧いただけます。

実施日程

1. 令和 4 年 (2022) 12 月 20 日 (火) 午後 4 時～7 時 担当 = 吉澤 悟 (奈良国立博物館学芸部長)

2. 令和 4 年 (2022) 12 月 27 日 (火) 午後 4 時～7 時 担当 = 内藤 航 (奈良国立博物館学芸部研究員)

※上限に達し次第、販売終了します。

※当日やむをえず参加できなかった場合は、会期中に 1 回のみ本展をご観覧いただけます。

## 公開講座

### 令和5年（2023）1月7日（土）「王朝文化が蘇る 春日若宮古神宝とその復元」

講師：松村 和歌子 氏（春日大社国宝殿主任学芸員）

時間：午後1時30分～3時（午後1時開場）

会場：奈良国立博物館 講堂

定員：90名（事前申込制）抽選による座席指定制です。

申込方法：奈良国立博物館ホームページ「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより  
必要事項をご入力の上、お申し込みください（WEB申込のみとなります）。

受付期間：11月28日（月）午前10時～12月12日（月）午後5時

当選者には12月23日（金）までに参加証をお送りします。当日必ずお持ちください。

※聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）。

※応募はお1人様1回でお願いいたします。

## 本展の報道に関するお問合せ

式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展－祈りの王朝文化－」広報事務局（ネネラコ内）

電話：06-6225-7885 FAX：06-7635-7587 E-MAIL：kasuga-wakamiya@nenelaco.com

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

### [奈良国立博物館プレスリリース配信について]

下記にご登録いただくと、プレスリリースなどの情報を随時配信いたします。

登録 URL：[https://e.bme.jp/bm/p/f/tf.php?id=narahaku\\_pr&task=regist](https://e.bme.jp/bm/p/f/tf.php?id=narahaku_pr&task=regist)



【広報用画像一覧】  
式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展－祈りの王朝文化－」

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。

下記、申込フォームよりお申込ください。

広報画像申込フォーム（WEB）

<https://forms.gle/qTShgkST9Jyg1K9a9>

※難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。



■広報画像をご使用の際は、別紙に記載の【画像使用全般に関する注意】を必ずご確認ください。

【1】 	【2】 	【3】 	【4】 
【5】 	【6】 	【7】 	【8】 
【9】 	【10】 	【11】 	【12】 
【13】 	【14】 	【15】 	【16】 

報道に関するお問合せ

式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展－祈りの王朝文化－」広報事務局（ネネラコ内）

E-MAIL / [kasuga-wakamiya@nenelaco.com](mailto:kasuga-wakamiya@nenelaco.com) TEL / 06-6225-7885 FAX / 06-7635-7587

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

【広報用画像申込書】  
式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展－祈りの王朝文化－」

**[画像使用全般に関する注意]**

- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 特別展名、会期、会場、画像・クレジットは必ず記載してください。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。  
なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
- WEBサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを広報事務局にお送りください。
- 掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、同録DVDを広報事務局までお送りください。

**[広報画像クレジット一覧]**

番号	クレジット【指定・作品名・時代・所蔵】
□ 1	重要文化財 春日宮曼荼羅 鎌倉時代（13世紀） 奈良・南市町自治会
□ 2	文殊菩薩立像 鎌倉時代（13世紀） 東京国立博物館
□ 3	国宝 若宮御料古神宝類 金鶴及銀樹枝・銀樹枝 平安時代（12世紀） 奈良・春日大社
□ 4	金鶴洲浜台 現代 令和4年（2022年） 奈良・春日大社
□ 5	国宝 若宮御料古神宝類 毛抜形太刀 平安時代 保延元年（1135） 奈良・春日大社
□ 6	若宮御料古神宝類 毛抜形太刀 復元模造 現代 平成15年（2003） 奈良・春日大社
□ 7	国宝 金地螺鈿毛抜形太刀 平安時代（12世紀） 奈良・春日大社
□ 8	金地螺鈿毛抜形太刀 復元模造 現代 平成30年（2018） 文化庁
□ 9	国宝 若宮御料古神宝類 平胡簾 平安時代 大治6年（1131） 奈良・春日大社
□ 10	若宮御料古神宝類 平胡簾 復元模造 現代 平成30年（2018） 文化庁
□ 11	遷宮番匠道具 江戸時代（17世紀） 奈良・春日大社
□ 12	獅子・狛犬（第一殿撤下品） 鎌倉時代（13世紀） 奈良・春日大社
□ 13	獅子・狛犬（若宮神社撤下品） 鎌倉時代（13世紀） 奈良・春日大社
□ 14	春日若宮御祭礼絵巻 上・中・下巻 江戸時代（17世紀） 奈良・春日大社
□ 15	国宝 赤糸威大鎧（竹虎雀飾） 鎌倉～南北朝時代（13～14世紀） 奈良・春日大社
□ 16	メインビジュアル※クレジット不要

貴社名／						
お名前／						
部署／	ご所属／					
貴媒体名／	媒体種／					
サイトURL／						
掲載号・露出予定日／	月号（	月	日号）／	月	日発売予定	<input type="checkbox"/> WEBへの転載あり
TEL／	FAX／					
E-MAIL／						
媒体プレゼント用チケット／ <input type="checkbox"/> 希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須 ※チケットの発送は開幕直前になります お送り先／〒						

**報道に関するお問合せ**

式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展－祈りの王朝文化－」広報事務局（ネネラコ内）  
E-MAIL／[kasuga-wakamiya@nenelaco.com](mailto:kasuga-wakamiya@nenelaco.com) TEL／06-6225-7885 FAX／06-7635-7587  
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル